

2 年次を振り返って

看護学科第 42 期生 阿部 亜美

この 1 年間を振り返って一番印象に残っていることは、臨地実習に行ったことです。コロナ禍での実習ということもあり、実習では患者様と関わる際のルールが設けられていました。それは「1 回の訪室時間は 15 分まで」「必ずフェイスシールドを着用すること」など徹底した感染対策をしながら患者様とコミュニケーションを取ることです。私は「1 回 15 分って短いな」と思っていました。普段何気なく生活していると 15 分は早く過ぎてしまう感覚だったので、そう感じたのだと思います。しかし、今考えてみると、とても貴重な時間だったのだと気づきました。



現在私は、准看護師として病棟で働きながら通学しています。准看護師 1 年目は新しく覚える仕事で頭の中はいっぱい、不安を抱えながらの毎日でした。先輩看護師に支えてもらいながら日々の業務と学業をこなしていく事で精一杯でした。准看護師 2 年目になり仕事にも徐々に慣れ、やっと患者さんとコミュニケーションを取れる時間が作れるようになってきたと感じています。しかし、それは時間にするととても短く、15 分間 1 人の患者さんと向き合える時間はそうそうありません。

3 年生を目前に控え、私は准看護学科の時に先輩看護師から言われた言葉を思い出しました。それは「臨床に出たら業務に迫われ、患者さんとちゃんと向き合える時間って意外と少ない。1 人の患者さんだけに向き合って看護できるのは、実習の時だけだよ。」という言葉です。確かにそうだと痛感しました。

実習と聞くと、乗り越えられるだろうか大丈夫だろうか、不安なことばかり考えてしまいます。しかし、貴重な時間なのだと気づいた今は、その時間を大切にしながら、実習生を受け入れて下さった患者様に感謝して、真摯に向き合っていこうと思っています。先生や指導者の方々にご指導いただきながら仲間と切磋琢磨し、看護師になれるよう頑張っていこうと思います。